

F-060

F-060

(18)日本特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-283284

(45)公開日 平成5年(1993)10月29日

(81)Int.Cl. ⁴	発明番号	特許出願番号	F I	技術表示箇所
H 01 G 4/40	S 2 1	9174-6E		
H 01 F 15/00		D 7129-5E		
17/00		D 7129-5E		
41/04		C 8019-5E		
H 01 G 4/06	1 0 1	8019-5E		

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全 10 項) 最終頁に続く

(21)出願番号	特願平4-78890	(71)出願人	000005821 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
(22)出願日	平成4年(1992)3月31日	(72)発明者	牧野 浩 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
		(72)発明者	木村 誠 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
		(72)発明者	井嶋 昭彦 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
		(74)代理人	弁護士 小堀治 明 (外2名) 最終頁に続く

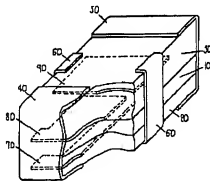
(54)【発明の名称】 チップ型ノイズ対策用フィルタおよびその製造方法

(57)【要約】

【目的】 デジタル機器の小型・薄型化に伴う高密度実装回路基板のノイズ対策品として、小型低コストで優れた実装性と信頼性を有したチップ型ノイズ対策用フィルタを提供する。

【構成】 角板状のセラミック基板10と、セラミック基板10の一方の面上に形成された磁性体層に厚膜導体パターンを内蔵するインダクタ層20と、セラミック基板10の他方の面上に形成された誘電体層に厚膜導体対向電極を備えたコンデンサ層30と、これらの積層体の端部に設けた第1の信号ライン用外部電極40、第2の信号ライン用外部電極50およびアース用外部電極60とを備えてフィルタを構成したことにより、実装性と信頼性の優れたチップEMIフィルタが得られる。

10---セラミック基板
20---インダクタ層
30---コンデンサ層
40---第1の信号ライン用外部電極
50---第2の信号ライン用外部電極
60---アース用外部電極
70---厚膜導体パターン



【特許請求の範囲】

【請求項1】 両面状のセラミック基板と、このセラミック基板の一方の面上に形成された磁性体層に導電層パターンを内設するインダクタ層と、前記セラミック基板の他方の面上に形成された導電層に導電層パターンを形成した対向電極を備えたコンデンサ層と、これらの積層体の端部に配置した第1の信号ライン用外部電極と、前記第1の信号ライン用外部電極と対向した端部に配置した第2の信号ライン用外部電極と、前記導電層の他の端部に前記対向電極と電気的に接続されたアース用外部電極とを少なくとも備えてフィルタを構成したことを特徴とするチップ型ノイズ対策用フィルタ。

【請求項2】 対向電極が一方からなり、第1の信号ライン用外部電極が導電層パターンと前記対向電極の一方とに電気的に接続され、第2の信号ライン用外部電極が前記導電層パターンの他端と電気的に接続され、アース用外部電極が前記対向電極の他方と電気的に接続されてL型フィルタを構成したことを特徴とする請求項1記載のチップ型ノイズ対策用フィルタ。

【請求項3】 対向電極が一方と他の一方が2個からなり、第1の信号ライン用外部電極が導電層パターンと前記対向電極2個のうちの一方とに電気的に接続され、第2の信号ライン用外部電極が前記導電層パターンの他端と前記対向電極2個のうちの他方とに電気的に接続され、アース用外部電極が他方の前記対向電極と電気的に接続されてπ型フィルタを構成したことを特徴とする請求項1記載のチップ型ノイズ対策用フィルタ。

【請求項4】 対向電極が一方からなり、この対向電極の一方が導電層パターンと電気的に接続され、第1の信号用外部電極が前記導電層パターンと一端に電気的に接続され、第2の信号ライン用外部電極が前記導電層パターンと他端に電気的に接続され、アース用外部電極が前記対向電極の他方と電気的に接続されてT型フィルタを構成したことを特徴とする請求項1記載のチップ型ノイズ対策用フィルタ。

【請求項5】 磁性体からなるシート状セラミック基板の一方の面に磁性体層および導電層パターンを形成して積層体のインダクタ層を形成する工程と、前記シート状セラミック基板の他方の面に導電層および対向電極を形成してコンデンサ層を形成する工程と、前記インダクタ層および前記コンデンサ層を形成した前記シート状セラミック基板を一次分割する工程と、この一次分割後の前記シート状セラミック基板の前記インダクタ層および前記コンデンサ層を含む端部に信号ライン用外部電極を形成する工程と、この信号ライン用外部電極を形成した後二次分割してチップに分割する工程と、このチップの端部にアース用外部電極を形成する工程とを有するチップ型ノイズ対策用フィルタの製造方法。

【発明の利便性説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、小型電子機器の基板上に高周波回路に適用して使用するチップ型ノイズ対策用フィルタ（以下、チップEMIフィルタと記す）およびその製造方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、チップEMIフィルタは、磁性素子とチップコンデンサとの複合型を始めとして、種々のタイプのものが高周波回路基板の高周波ノイズ対策用部品として多用されている。

【0003】 以下に従来の複合型のチップEMIフィルタについて図面を参照しながら説明する。図17は従来のチップEMIフィルタの分解斜視図を、また図18はその等価回路図を示すものである。図17において、110はほぼ正方形のチップ状の磁性素子で、その磁性素子110の表面の中央部に穴111が、その表面の所定位置に複数の貫通導体孔112、113、114、115が、またその表面および側面に端子電極116、117、118、119がそれぞれ設けられている。

【0004】 120は一方の端子電極21、122を有するコンデンサ素子で、磁性素子110の穴111に埋設されている。そして、磁性素子110の端子電極118、119とコンデンサ素子120の端子電極121、122とが導体板123、124により電気的に接続され、3端子の丁度L型フィルタに構成されている。

【0005】 このようなチップEMIフィルタは、図18に示すように、2個のインダクタL10、L11と1個のコンデンサC10とが一体化されて小形化された構成となっており、これを回路基板に実装したとき、LCピンに近接して高周波に実装することができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記の従来の構成では、製品形状に起因する実装性、量産性面で大きな問題点を有していた。すなわち、フィルタとしてL10およびL11のインダクタンス値の大きなものを得るためには、貫通導体孔の距離がある程度必要でどうしてもチップ高さが高くなり、低付には限界がある。また、2個のコンデンサと1個のインダクタからなるπ型のLCフィルタを構成するには、磁性素子に2個のチップコンデンサ素子を埋め込んで一体化する必要があるが、チップサイズが極端に大きくなって高周波実装には適さない。さらに、磁性素子がほぼ正方形の形状をしていないため、貫通導体孔、端子電極の形成を個片状態で形成しなければならず、どうしても複雑な工程を必要とする。このため、量産には向かないという問題点を有していた。

【0007】 本発明は上記従来の問題点を解決するとともに、従来の複合型チップEMIフィルタでは実装性でもない優れた実装性と量産性を有したチップEMIフィルタおよびその製造方法を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するために本発明のチップEMIフィルタは、角板状のセラミック基板と、このセラミック基板の一方の面にインダクタ層、他方の面にコンデンサ層をそれぞれ設け、これらを外部電極で接続してLCフィルタ回路を構成するものである。

【0009】また、その製造方法は角板状のセラミック基板の一方の面に誘電体のインダクタ層を、他方の面にコンデンサ層を形成した後一次分割し、さらに外部電極を形成した後二次分割してチップEMIフィルタ製造するものである。

【0010】

【作用】本発明のチップEMIフィルタは、焼結体の強固なセラミック基板をベースとしているため、薄型で低コストであると同時にチップ外形寸法のばらつきが小さくなり、高信頼な実装に達している。また、シート状のセラミック基板上にインダクタ層等を印刷等により一度に多数個形成するため、角板型厚膜チップ抵抗器と同様に製造が容易で生産性に富む。このため、従来の結合型チップEMIフィルタでは実現できなかった高信頼性と生産性を有したチップEMIフィルタを提供できる。

【0011】

【実施例】以下本発明の実施例について、図面を参照しながら説明する。

【0012】（実施例1）図1は本発明の第1の実施例におけるチップEMIフィルタの平面図、図2はその等価回路を示す図、図3はその構造説明のための要部拡大断面図である。また、図4～図6はその製造方法を説明するためのセラミック基板の平面図である。

【0013】図1～図3において、10は角板状のアルミナ系焼結体からなるセラミック基板、20はセラミック基板10の一方の面に形成したインダクタ層で、インダクタ層20は一對の磁性体層20a、20bとその間に挟まれた厚膜導体パターン70とから構成されている。30はセラミック基板10の他方の面に形成したコンデンサ層で、誘電体層30a、30bと対向電極80、90とで構成されている。40は厚膜導体パターン70の一端と対向電極80とを接続する第1の信号ライン用外部電極、50は厚膜導体パターン70の他端と接続された第2の信号ライン用外部電極、60は対向電極90と接続されたアース用外部電極である。

【0014】このチップEMIフィルタは、図2に示すように、1つのインダクタLと1つのコンデンサCとを有する1つの回路構成となっている。

【0015】以上のように構成されたチップEMIフィルタについて、図4～図6を用いてその製造方法を説明する。図4（A）に示すような分割後の1個片が3.0×1.5mmの角板状のセラミック基板10に等間隔に図2に示す第1分割線16と第2分割線17を加工したアル

ミナ系のシート状セラミック基板11の片面に、図4（B）に示すように、NiZnCu系のフェライトを主成分とする磁性体層20aをスクリーン印刷によって形成した後、図4（C）に示すようにAg-Pd系の厚膜導体パターン70を印刷形成し、さらにその上に、図5（A）に示すようにNiZnCu系のフェライトを主成分とする磁性体層20bを同様に印刷形成し、800℃～1200℃で1時間焼成する。

【0016】次に、図5（B）に示すように、シート状セラミック基板11の他方の面にAg-Pd系の厚膜導体ペーストをスクリーン印刷して対向電極80を形成し、図5（C）に示すようにマダニウム・ニオブ酸鉛系あるいはチタン酸バリウム系の厚膜コンデンサペーストをスクリーン印刷して誘電体層30aを形成する。さらにその上に、図6（A）に示すように、一部が対向電極80と重なるように図2のコンデンサC1を得るためにAg-Pd系の厚膜導体ペーストをスクリーン印刷して対向電極90を形成した後、図6（B）に示すように、図5（C）と同様に厚膜コンデンサペーストをスクリーン印刷して誘電体層30bを形成し、これを800℃から1200℃で1時間焼成する。

【0017】次に、シート状セラミック基板11の一次分割線16に沿って分割した後、図6（C）に示すように分割された両端面に、第1の信号ライン用外部電極40および第2の信号ライン用外部電極50をAg-Pd系の厚膜導体ペーストを塗布し、550℃から900℃で1時間焼成することによって形成する。最後に二次分割線17に沿って分割して個片にした後、アース用外部電極60を信号ライン用外部電極40、50の場合と同様に塗布、焼成してチップEMIフィルタを完成させる。

【0018】本実施例によるL型チップEMIフィルタと従来のL型チップEMIフィルタの挿入損失・周波数特性を測定して比較したところ、従来と同等以上の優れた特性を有していた。また、多数の両者のチップEMIフィルタをチップマウント機によりプリント基板上にマウントし、はんだ付けしてそれらの実装性を比較評価したところ、本実施例のチップEMIフィルタはチップの割れ、位置ずれ、はんだ不良が皆無であった。このように、本実施例によるチップEMIフィルタは、実装性の点で優れた効果が得られる。

【0019】さらに、本実施例のチップEMIフィルタの製造方法によれば、機械的強度が高く寸法精度の高い焼結体のシート状セラミック基板11をベースとしてインダクタ層20とコンデンサ層30を多数個形成する。多数個のチップEMIフィルタを効率よくしかも高精度に一括形成できる。このように本実施例のチップEMIフィルタの製造方法は、生産性の点で優れた効果が得られる。

【0020】（実施例2）図7は本発明の第2の実施例

におけるチップEMIフィルタの一部の欠損部、図8はその等価回路を示す図、図9はその構造説明のための要約分解図である。

【0021】図7～図9において、10はセラミック基板、20はインダクタ層、20a、20bは磁性体層、31はコンデンサ層、30a、30bは誘電体層、40、50は信号ライン用外部電極、60はアース用外部電極、70は厚膜導体パターン、81a、81b、90は対向電極で、下記の一部を除いて実施例1の構成と同様である。実施例1の構成と異なるのは、一方の対向電極を2つに分割して対向電極81a、81bとしたコンデンサ層31とし、図8に示す2個のコンデンサC2、C3を形成するπ型のLCフィルタを構成するように配置されている点にある。

【0022】上記のように構成されたチップEMIフィルタの製造方法は、対向電極81a、81bのパターン形状が異なるだけで、実施例1の製造方法と同様である。

【0023】このようにして得られたチップEMIフィルタの挿入損失・周波数特性を測定したところ、急峻なインサクションロスカーブを示し、すなわち優れたノイズ吸収特性を有していることがわかる。これは、セラミック基板10を介してインダクタ層20とコンデンサ層30が形成され、かつ対向電極81a、81bと接続された信号用の端子である信号ライン用外部電極40、50が対向して配置されているため、信号ライン用外部電極40、50間でL1と並列に余分な寄生容量が発生しないと考えられる。

【0024】以上のように本実施例によれば、角板状のセラミック基板10と、このセラミック基板の一方の面にインダクタ層20、他方の面にコンデンサ層31を、信号ライン用外部電極40、50、アース用外部電極60で接続してπ型のLCフィルタ回路を構成することにより、実効性と食産性を優れたものにすることができ、特に、本実施例のチップEMIフィルタは、余分な寄生容量が発生せず、高周波ノイズ吸収性の優れたものである。

【0025】(実施例3) 図10は本発明の第3の実施例におけるチップEMIフィルタの一部の欠損部、図11はその等価回路を示す図、図12はその構造説明のための要約分解図である。また、図13～図15はその製造方法を説明するためのセラミック基板の平面図である。

【0026】図10～図12において、12は半円形状の孔13を設けたセラミック基板、21はインダクタ層、21a、21bは孔13を設けた磁性体層、32はコンデンサ層、32a、32bは孔13を設けた誘電体層、40、50は信号ライン用外部電極、60はアース用外部電極、71は波形状の厚膜導体パターン、82、91は対向電極、85はセラミック基板12および磁性

体層21aの孔13の側面に設けたスルー電極である。

【0027】実施例1の構成と異なる主な点は、コンデンサ層C4に対応する対向電極82が半円形状の孔13のスルー電極85を介して、厚膜導体パターン71によって形成される2個の直交のインダクタL2、L3の接点に接続してT型のLCフィルタを構成するように配置されている点にある。

【0028】以上のように構成されたチップEMIフィルタについて、図13～図15を用いてその製造方法を説明する。図13(A)に示すような半径0.2mmの半円形状の孔13を端面の中央部に有して分割溝の1個目が3.0×1.5mmの角板状のセラミック基板12に割るようには線画に一次分割溝16と二次分割溝17を加工したアルミナ系のシート状セラミック基板14の片面に、図13(B)に示すようにNi/ZnCu系のフェライトを主成分とする磁性体層21aをスクリーン印刷によって形成した後、図13(C)に示すようにAgs-Pd系の厚膜導体パターン71を印刷形成すると同時に、半円形状の孔13の側面にもスルーホール印刷された内装にスルー電極85が形成される。

【0029】さらに、図14(A)に示すようにNi/ZnCu系のフェライトを主成分とする磁性体層21bを同様に印刷形成し、800℃～1200℃で1時間焼成する。ついで図14(B)に示すように、シート状セラミック基板14の他方の面にAgs-Pd系の厚膜導体パターンをスクリーン印刷して対向電極82を形成すると同時に半円形状の孔13の内装にスルー電極85が形成される。

【0030】さらに、図14(C)に示すように、マグネシウム・ニオブ酸塩系あるいはチタン酸バリウム系の厚膜コンデンサペーストをスクリーン印刷して誘電体層32aを形成した上に、図15(A)に示すように、一部は対向電極82と重なり図11の等価C4を得るようにはAgs-Pd系の厚膜導体ペーストをスクリーン印刷して対向電極91を形成した後、図15(B)に示すように、図14(C)と同様に厚膜コンデンサペーストをスクリーン印刷して誘電体層32bを形成し、これを800から1200℃で1時間焼成する。

【0031】次に、シート状セラミック基板14の一次分割溝16に沿って分割した後、図15(C)に示すように、分割された両端面に厚膜導体パターン71に接続する第1の信号ライン用外部電極40および第2の信号ライン用外部電極50をAgs-Pd系の厚膜導体を550℃から900℃で1時間焼成することによって形成する。最後に二次分割溝17に沿って分割して個片にした後、対向電極91に接続するアース用外部電極60をスルー電極85と対向する端面に同様に塗布、焼成してチップEMIフィルタを完成させる。

【0032】本実施例によるT型チップEMIフィルタと従来のT型チップEMIフィルタの挿入損失・周波数

特性を測定して比較し、図16に代表的なその関係曲線と比較して示す。図16から本実施例によるT型EMIフィルタは急峻なカットと深い減衰特性を有しており、優れたノイズ吸収特性であることがわかる。また、多数の両側のチップEMIフィルタをチップマウント型によりプリント基板上にマウントし、はんだ付けしてそれぞれの実装性を比較評価したところ、本実施例のチップEMIフィルタはチップの割れ、位置ずれ、はんだ不良が皆無であった。このように、本実施例によるチップEMIフィルタは、実装性の点で優れた効果が得られる。

【0033】なお、実施例1から実施例3において、端面の信号ライン用外部電極40、50、アース用外部電極60はセラミック基板10、12の端面に露出して形成したが、新たに、スルーホール用の孔の内壁にスルーホールによって設けたスルー電極であってもよい。また、信号ライン用外部電極40、50、アース用外部電極60、厚膜導体パターン70、71、対向電極80、81a、81b、82、90、91の各厚膜導体は、該系の厚膜導体ペーストを用いて真空中で形成したが、これに拘束なく、銅系の厚膜導体ペーストを用いて窒素などの非酸化性雰囲気中で形成して得ることもできる。さらには、インダクタ層20、21、あるいはコンデンサ層30、31、32の上に厚膜の抵抗性を形成してL、C、Rを複合化したチップEMIフィルタを構成することは容易である。

【0034】**【発明の効果】**以上のように本発明は、角板状のセラミック基板と、このセラミック基板の一方の面にインダクタ層、他方の面にコンデンサ層を、外部電極でこれらの層を接続してLCフィルタ回路を構成したことにより、優れた実装性とノイズ吸収性を有し、生産性の良い優れたチップEMIフィルタおよびその製造方法を実現できるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例におけるチップEMIフィルタの一部切欠斜視図
 【図2】同チップEMIフィルタの等価回路図
 【図3】同チップEMIフィルタの要部分解斜視図
 【図4】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の前半工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図2】



【図8】



【図11】



【図18】



【図5】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の中間工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図6】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の後半工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図7】本発明の第2の実施例におけるチップEMIフィルタの一部切欠斜視図

【図8】同チップEMIフィルタの等価回路図

【図9】同チップEMIフィルタの要部分解斜視図

【図10】本発明の第3の実施例におけるチップEMIフィルタの一部切欠斜視図

【図11】同チップEMIフィルタの等価回路図

【図12】同チップEMIフィルタの要部分解斜視図

【図13】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の前半工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図14】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の中間工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図15】(A)、(B)、(C)は同チップEMIフィルタの製造工程の後半工程を説明するためのセラミック基板の平面図

【図16】本発明の第3の実施例におけるチップEMIフィルタと従来のチップEMIフィルタとの挿入損失-周波数特性を比較する特性図

【図17】従来のチップEMIフィルタの分解斜視図

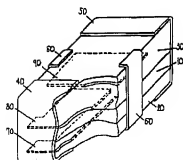
【図18】同等回路図

【符号の説明】

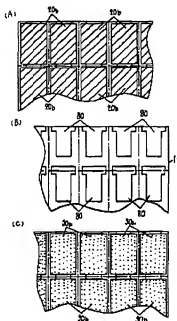
- 10、12 セラミック基板
- 11、14 シート状セラミック基板
- 16 一次分割溝
- 17 二次分割溝
- 20、21 インダクタ層
- 20a、20b、21a、21b 磁性体層
- 30、31、32 コンデンサ層
- 30a、30b、32a、32b 誘電体層
- 40、50 信号ライン用外部電極
- 60 アース用外部電極
- 70、71 厚膜導体パターン
- 80、81a、81b、82、90、91 対向電極

【図1】

10...シリコン基板
 20...シリコン層
 30...コンダクタ層
 40...シリコンの厚み
 50...シリコンの厚み
 60...シリコンの厚み
 70...シリコンの厚み

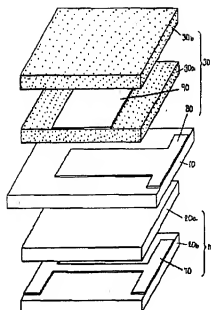


【図5】



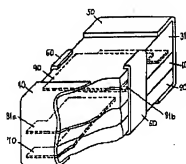
【図3】

10...シリコン基板
 20...シリコン層
 30...コンダクタ層

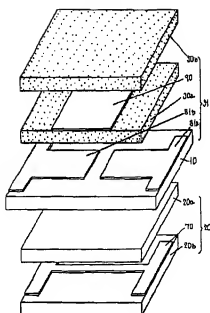


【図7】

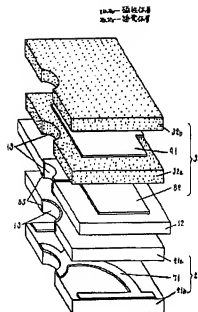
31...シリコン層
 32...シリコン層



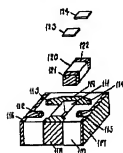
【圖9】



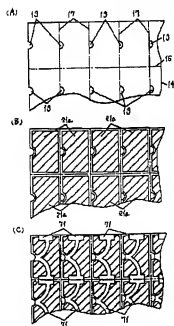
【圖12】



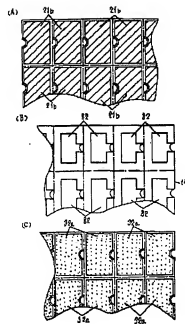
【圖17】



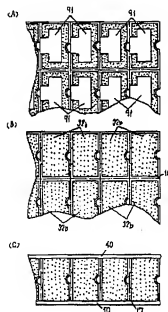
【圖13】

[illegible]

【图14】



【図15】



フロントページの続き

(51)Int. Cl. 5

H01G 4/12

4/30

識別記号 庁内整理番号

424

301 F 8019-5E

FI

技術表示箇所

(72)発明者 千原 博伸

大阪府門真市大字門真1009番地 松下電器

産業株式会社内